古川城跡　通路 5 遠景・2 ～ 7 号トレンチ遠景（東から）

図版 2

古川城跡　通路 5 近景・2・3・6・7 号トレンチ遠景（東から）

古川城跡　6 号トレンチ調査終了状況（南から）

古川城跡　石垣・通路 5・2・3・7 号トレンチ（東から）

古川城跡　3 号トレンチ南側 D-D’ 断面層位（東から）

図版 4

古川城跡　3 号トレンチ土留め石垣調査終了状況（南から）

古川城跡　5 号トレンチ石垣 2 調査終了状況（南から）

古川城跡　3 号トレンチ北側 D-D’ 断面層位（東から）

古川城跡　2 号トレンチ B-B’ 断面層位（南東から）

古川城跡　2 号トレンチ B-B’ 断面層位（東から）

図版 6

古川城跡　１号トレンチ検出状況（北から）

古川城跡　瀬戸美濃焼No.9 出土状況（南から）

古川城跡　礎石建物１遠景（東から）

図版 8

古川城跡　平坦地１調査終了状況（東から）

古川城跡　礎石建物１近景（南から）

古川城跡　礎石建物１近景（北から）

古川城跡　礎石建物１近景（北から）

図版 10

古川城跡　礎石 27 調査終了状況（南から）

古川城跡　　瀬戸美濃焼№29 出土状況（東から）

古川城跡　　天目茶碗No.44 出土状況（東から）

古川城跡　金属製品No.37（北から）

古川城跡　土師器皿No.14 出土状況（南西から）

古川城跡　14 号トレンチ G-G’ 断面層位（北から）

古川城跡　13 号トレンチ N-N’ 断面層位（北から）

図版 12

古川城跡　石列 3 調査終了状況（東から）

古川城跡　土坑 9 断面層位（東から）

古川城跡　土坑 5 断面層位（東から）

古川城跡　礎石 30 調査終了状況（西から）

古川城跡　遠景（東から）

小島城跡　１号トレンチ石垣１調査終了状況（南から）

図版 14

小島城跡　1 ～ 3 号トレンチ通路 3 調査終了状況（北から）

小島城跡　1 ～ 3 号トレンチ通路 3 調査終了状況（西から）

小島城跡　1～3号トレンチ通路3調査終了状況（東から）

小島城跡　1～3号トレンチ調査終了状況（東から）

図版 16

小島城跡　１号トレンチ A-A’ 断面層位・１号トレンチ調査終了状況（東から）

小島城跡　１号トレンチ AA-AA’ 断面層位（東から）

小島城跡　平坦地 2 北側石垣（北から）

小島城跡　平坦地 1 東側石垣（東から）

図版 18

小島城跡　5 号トレンチ石垣 2・3 検出状況（南から）

小島城跡　4 号トレンチ礎石 8・盛土遺構 6、5 号トレンチ礎石 5 調査終了状況（西から）

小島城跡　4 号トレンチ盛土遺構 6 近景（北から）

図版 20

小島城跡　4 号トレンチ盛土遺構 6 近景（南から）

小島城跡　4 号トレンチ礎石 8 （東から）

小島城跡　5 号トレンチ石垣 2、A-A’ 断面層位（西から）

小島城跡　遠景（南から）

野口城跡　１号トレンチ調査終了状況（南から）

野口城跡　１号トレンチ調査終了状況（北から）

図版 22

野口城跡　1・2 号トレンチ調査終了状況（南から）

野口城跡　2 号トレンチ調査終了状況（西から）

野口城跡　北側土塁調査終了状況（南から）

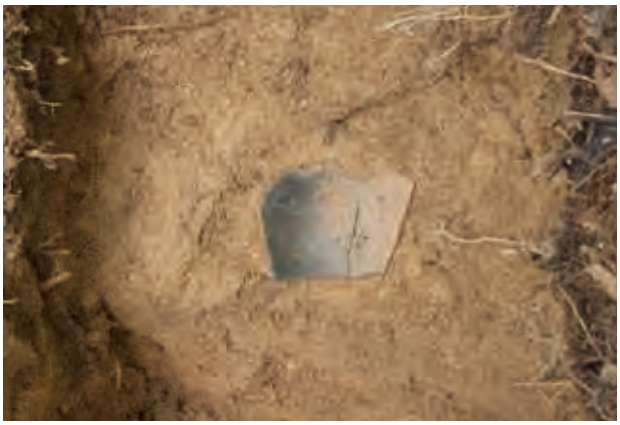
野口城跡　SA162（SP76・77）調査終了状況（東から）

野口城跡　畝状竪堀群調査終了状況（西から）

野口城跡　4 号トレンチ土塁 A-A’ 断面層位（東から）

野口城跡　西側土塁 B-B’ 断面層位（北から）

野口城跡　SP75 断面層位（東から）



野口城跡　土師器皿No.122 出土状況（北から）

野口城跡　土師器皿出土状況（西から）

野口城跡　遠景（南から）

図版 26

小鷹利城跡　礎石建物跡（北から）

小鷹利城跡　礎石建物跡（南から）

小鷹利城跡　礎石建物跡（南西から）

小鷹利城跡　礎石建物跡（西から）

図版 28

小鷹利城跡　１号トレンチ調査終了状況（南から）

小鷹利城跡　１号トレンチ調査終了状況（北から）

小鷹利城跡　2 号トレンチ調査終了状況（南から）

小鷹利城跡　2 号トレンチ調査終了状況（東から）

小鷹利城跡　S9 検出状況（北から）

小鷹利城跡　S25 検出状況（北から）

小鷹利城跡　TR30 調査終了状況（南から）

小鷹利城跡　TR33 調査終了状況（南から）

小鷹利城跡　TR46 調査終了状況（南から）

小鷹利城跡　2 号トレンチ調査終了状況（北から）

小鷹利城跡　2 号トレンチ A-A’ 断面層位（西から）

小鷹利城跡　SP67 調査終了状況（東から）

小鷹利城跡　畝状竪堀群（西から）

小鷹利城跡　遠景（北から）

図版 32

向小島城跡　SV69 石垣調査終了状況（南から）

向小島城跡　2号トレンチ調査終了状況（西から）

向小島城跡　1号トレンチ調査終了状況（南から）

図版 34

向小島城跡　SV69 石垣調査終了状況（南から）

向小島城跡　石垣 SV69A-A’ 断面層位（東から）

向小島城跡　SP65 断面層位（東から）

向小島城跡　SD67 断面層位（南から）

向小島城跡　土師器皿No.182・瀬戸美濃焼No.183 出土状況（南から）

向小島城跡　畝状竪堀群（北から）

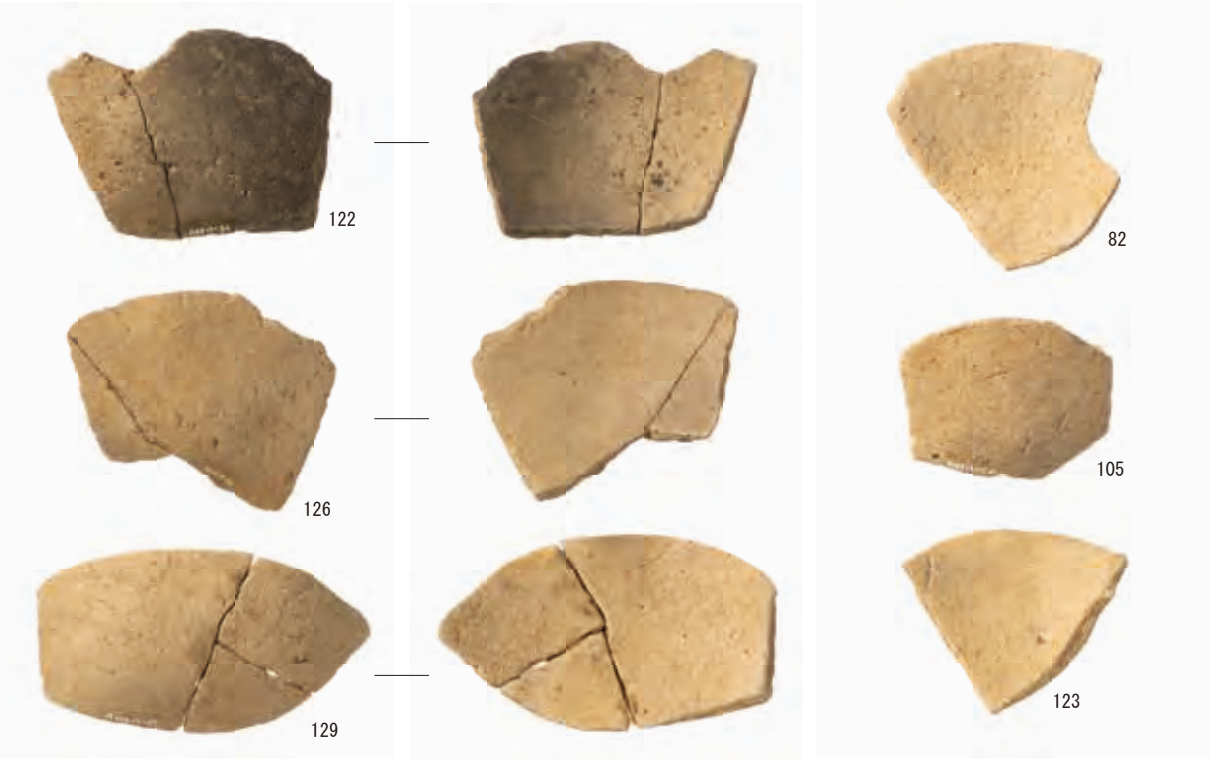
向小島城跡　遠景（西から）

古川城跡　出土遺物（１）

古川城跡　出土遺物（２）

古川城跡　出土遺物（３）

小島城跡　出土遺物



野口城跡　出土遺物（１）

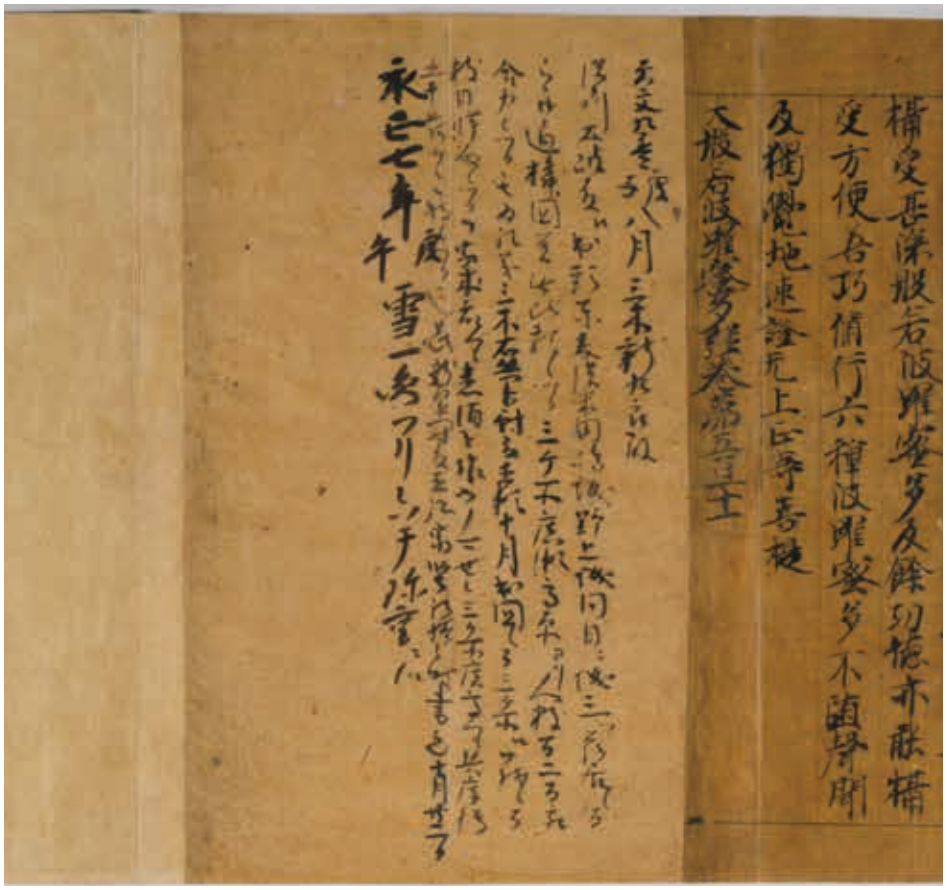
野口城跡　出土遺物（２）

小鷹利城跡　出土遺物

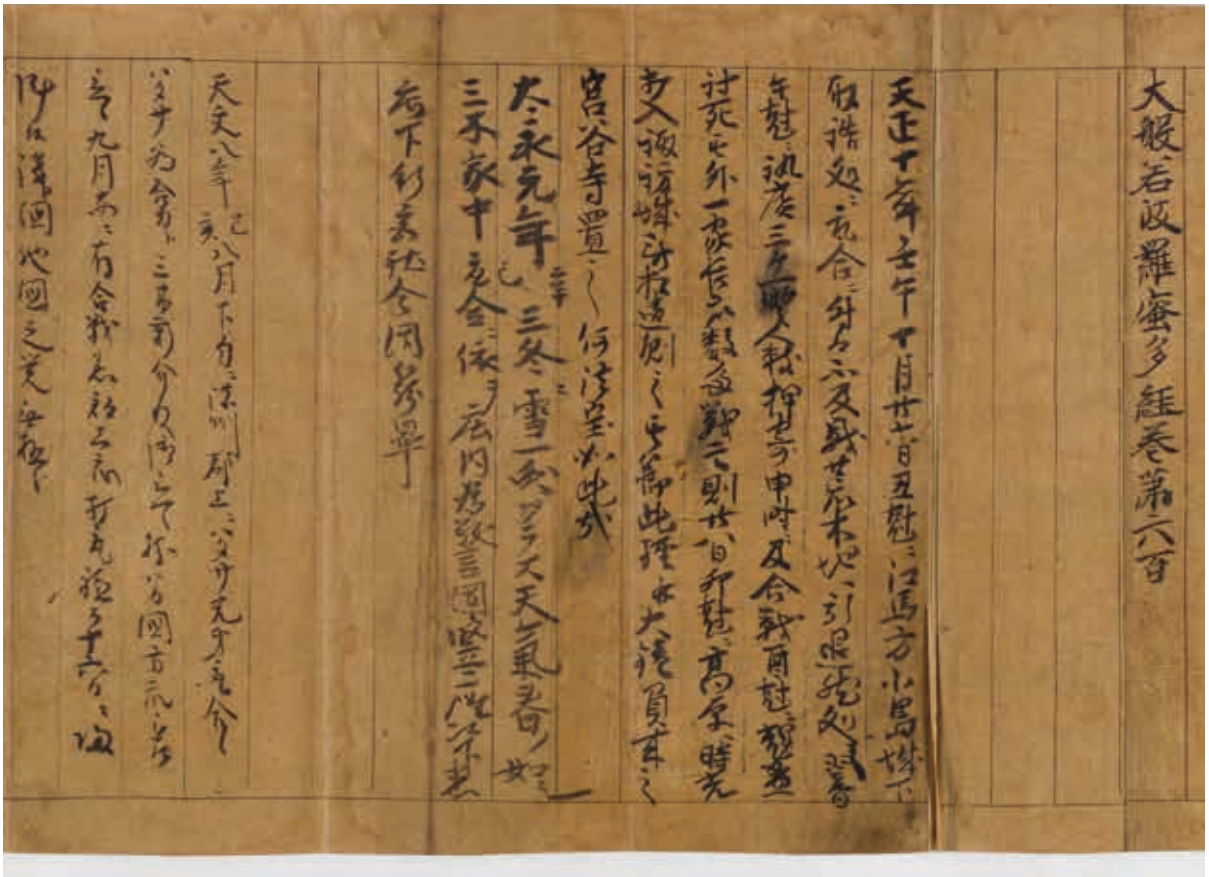
向小島城跡　出土遺物（１）

向小島城跡　出土遺物（２）

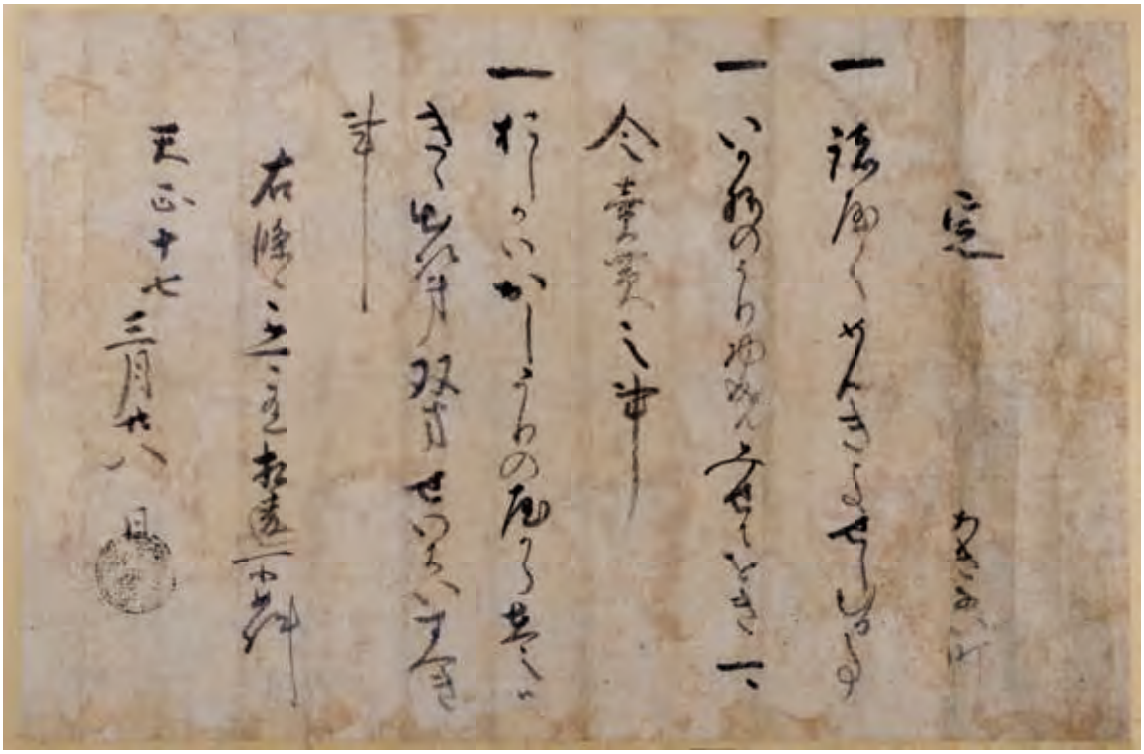
図版 38



【史料 1-1】大般若波羅蜜多経　第 511 巻奥書

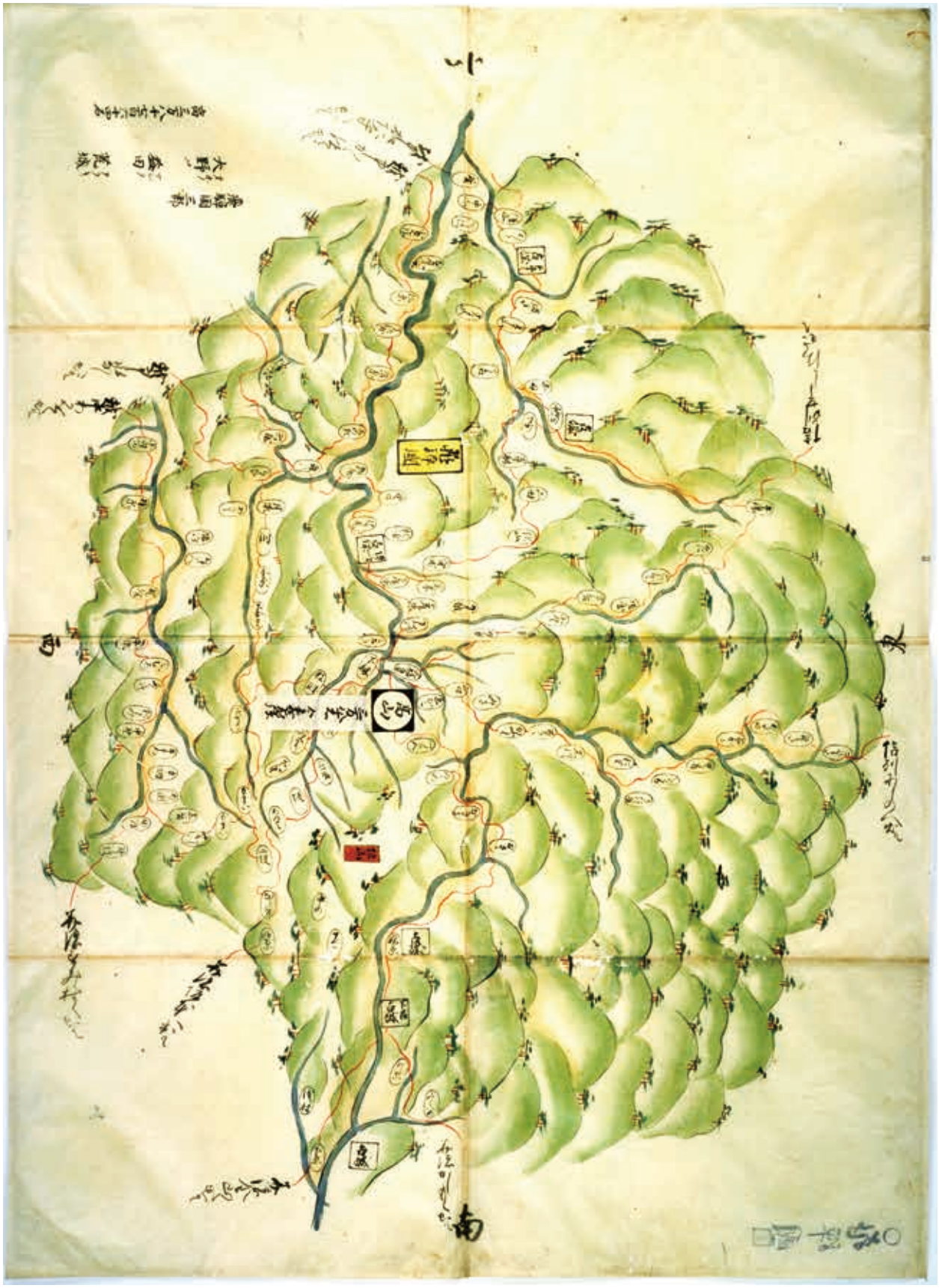


【史料 1-2】大般若波羅蜜多経　第 600 巻奥書　　寿楽寺所蔵



【史料 2-1】天正 17 年金森可重定書

【史料 2-2】天正 17 年金森可重定書（包紙上書）　飛騨市所蔵



【絵図 1-1】池田家本　飛騨国絵図　　岡山大学附属図書館所蔵

【絵図 1-2】池田家本　飛騨国絵図（古川・高山盆地周辺拡大）

【絵図 1-3】池田家本　飛騨国絵図（宮川・高原川下流域拡大）

【絵図 1-4】池田家本　飛驒国絵図（萩原・下呂周辺拡大）

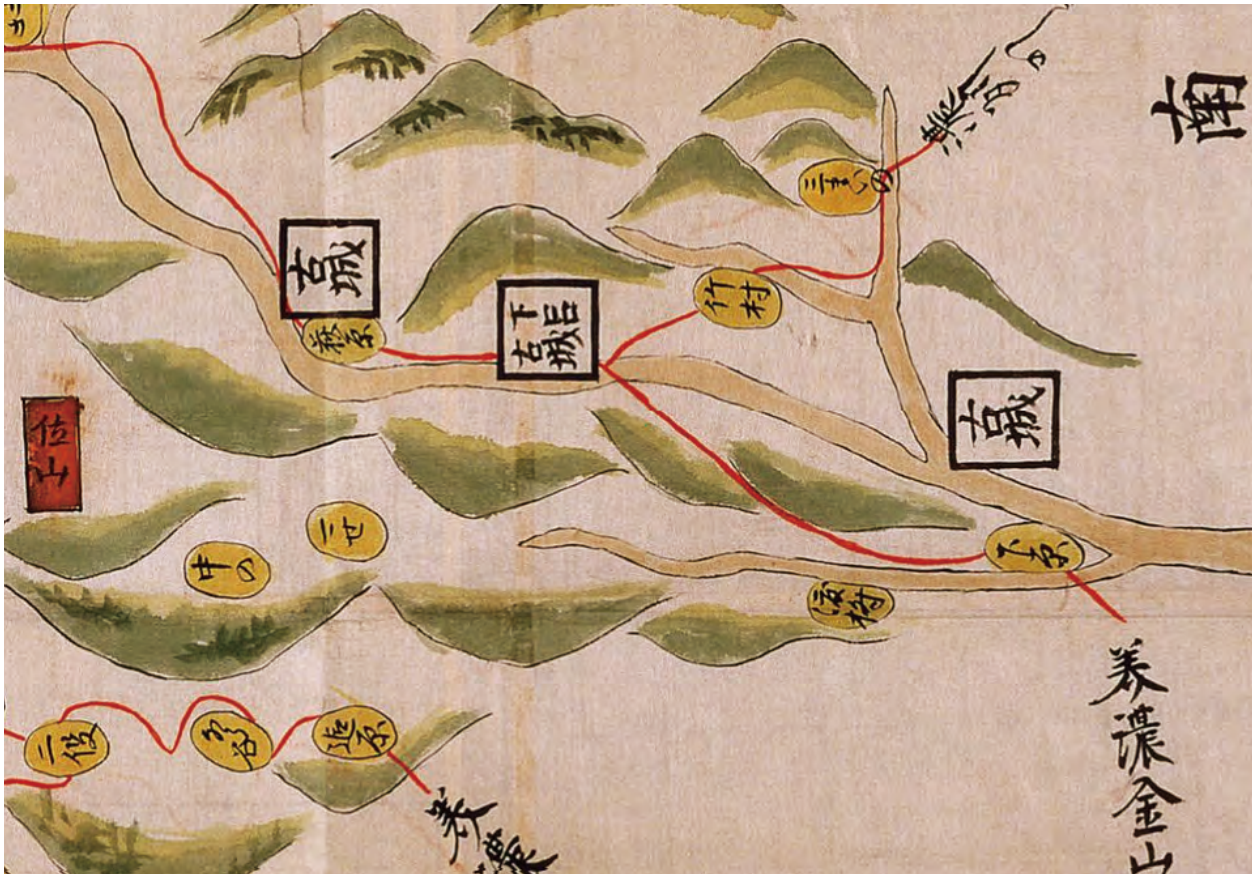
【絵図 1-5】池田家本　飛驒国絵図（美濃国境付近拡大）

【絵図 2-1】日本六十余州国々切絵図　飛驒国　　秋田県公文書館所蔵

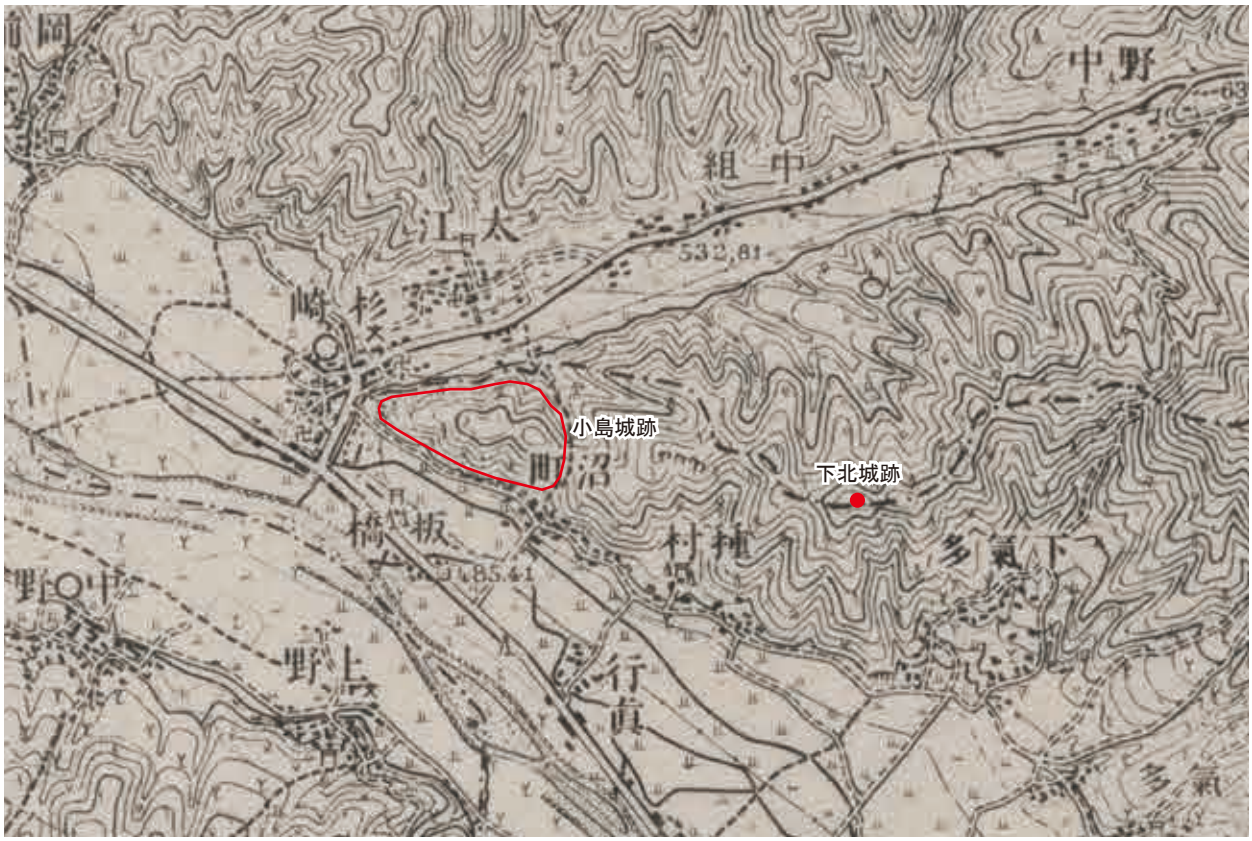
【絵図 2-2】日本六十余州国々切絵図　飛驒国（古川・高山盆地周辺拡大）

【絵図 2-3】日本六十余州国々切絵図　飛驒国（宮川・高原川下流域拡大）

【絵図 2-4】日本六十余州国々切絵図　飛驒国（萩原・下呂周辺拡大）



【絵図 2-5】日本六十余州国々切絵図　飛驒国（美濃国境付近拡大）



【絵図 3-1】陸軍参謀本部陸地測量部　五万分の一地形図　飛驒古川（小島城跡周辺拡大）

【絵図 3-2】陸軍参謀本部陸地測量部　五万分の一地形図　飛驒古川（古川城跡周辺拡大）

【絵図 3-3】陸軍参謀本部陸地測量部　五万分の一地形図　飛驒古川（野口城跡周辺拡大）

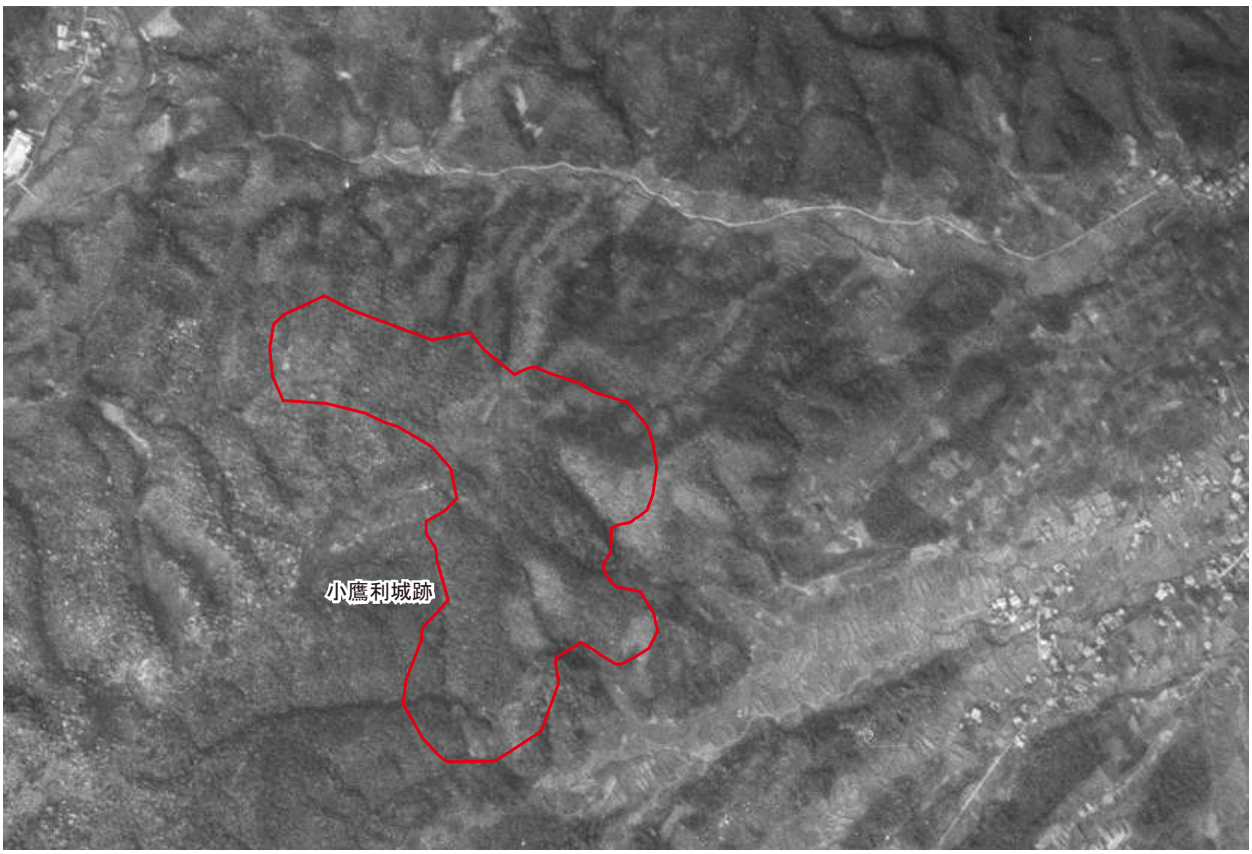
【絵図 3-4】陸軍参謀本部陸地測量部　五万分の一地形図　飛驒古川（向小島城跡・小鷹利城跡周辺拡大）

【写真 1】米軍航空写真（小島城跡周辺　昭和 23 年撮影）

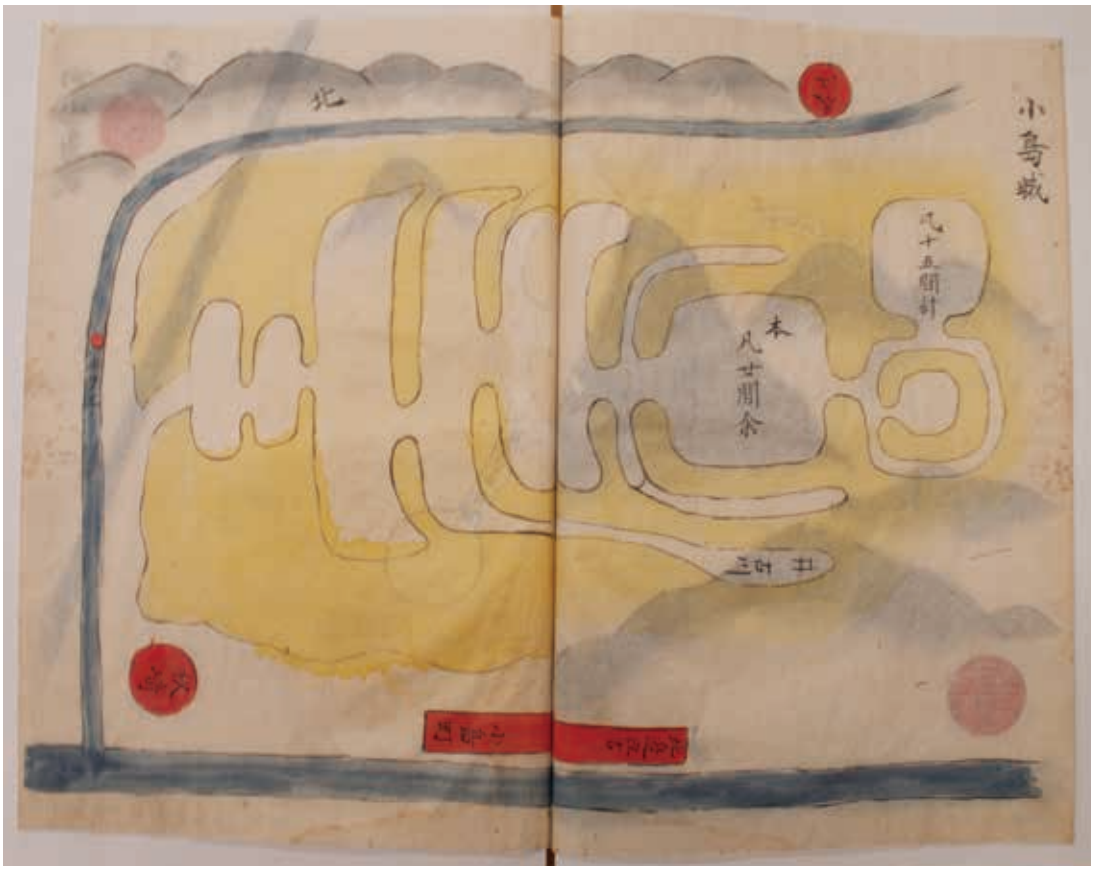
【写真 2】米軍航空写真（古川城跡周辺　昭和 23 年撮影）

【写真 3】米軍航空写真（野口城跡周辺　昭和 23 年撮影）

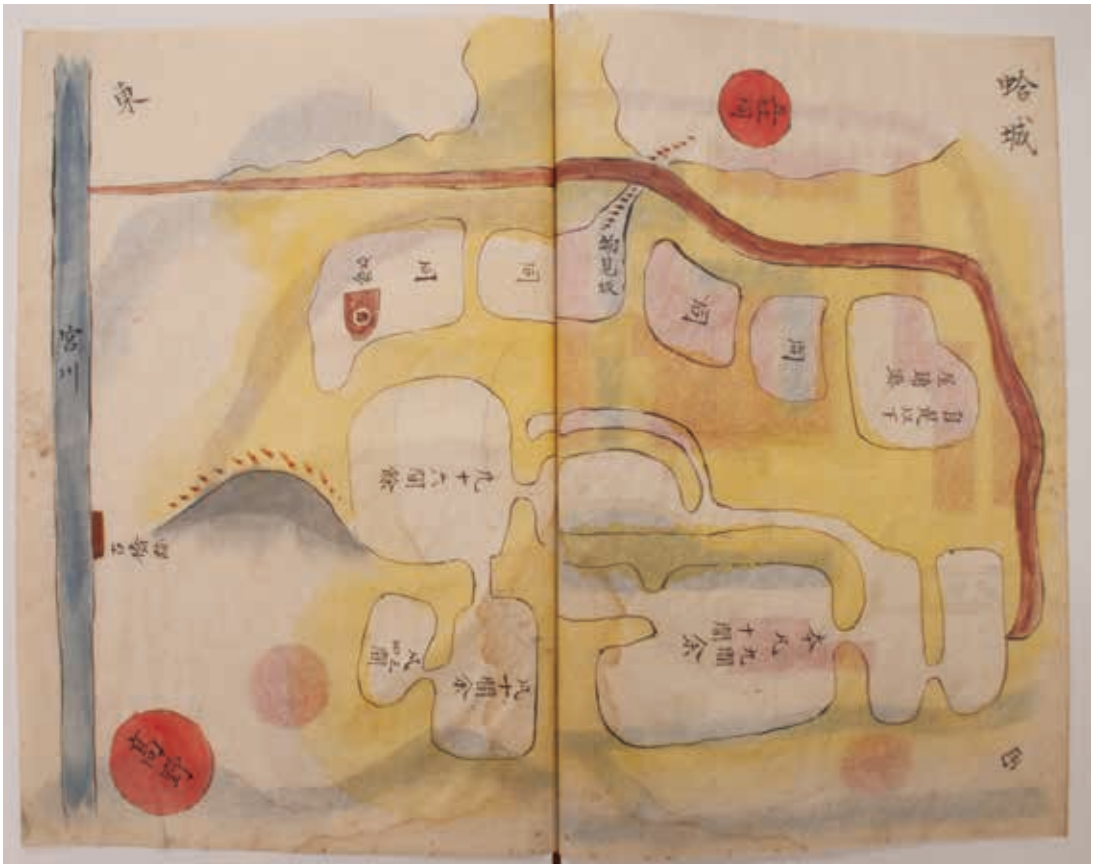
【写真 4】米軍航空写真（向小島城跡周辺　昭和 23 年撮影）



【写真 5】米軍航空写真（小鷹利城跡周辺　昭和 23 年撮影）



【絵図 4-1】小島城絵図（『飛州志』）　飛騨高山まちの博物館所蔵

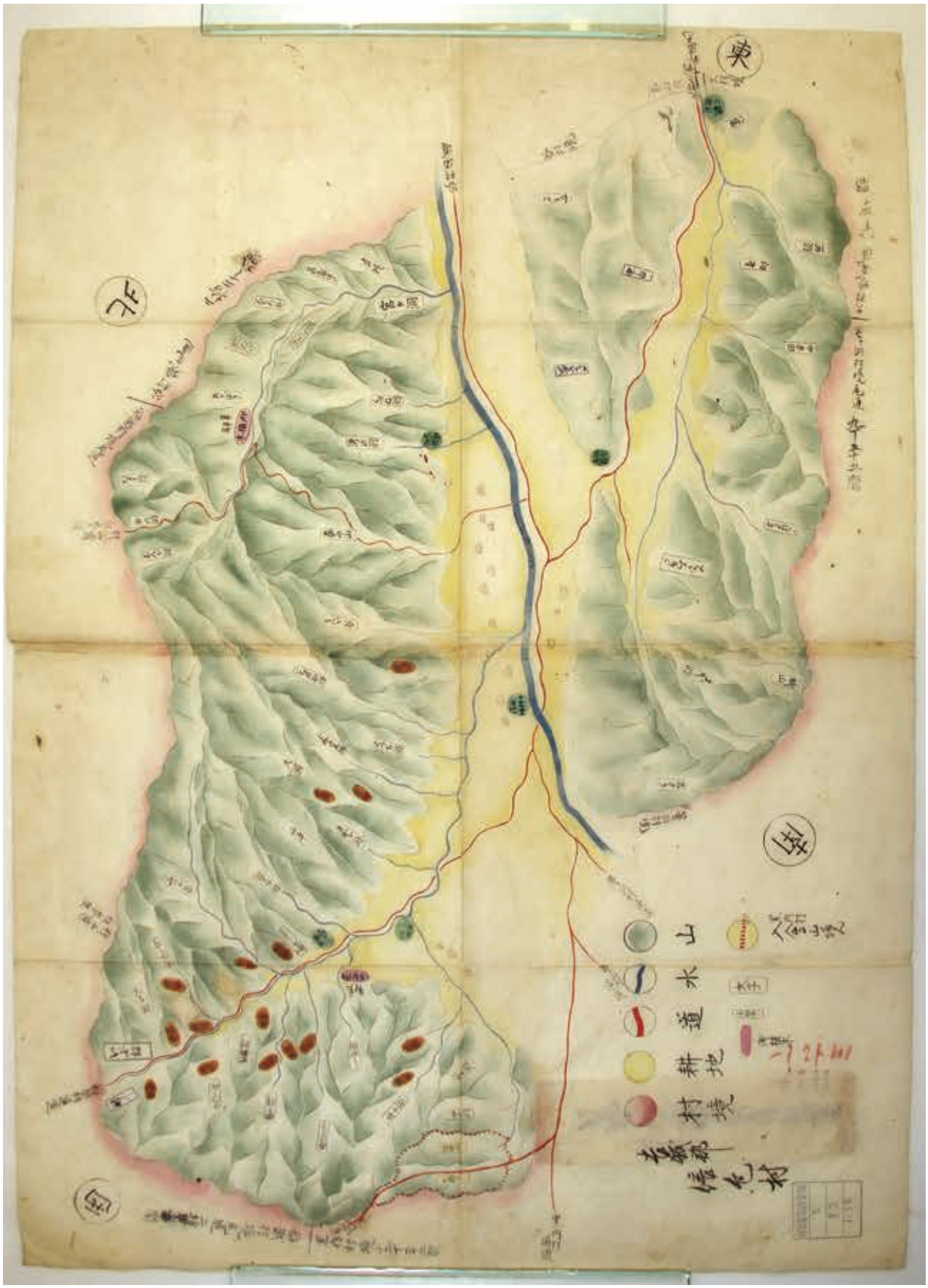


【絵図 4-2】蛤（古川）城絵図（『飛州志』）　飛騨高山まちの博物館所蔵

【絵図 4-3】向小島城絵図（『飛州志』）　飛騨高山まちの博物館所蔵

【絵図 4-4】黒内（小鷹利）城絵図（『飛州志』）飛騨高山まちの博物館所蔵

図版 54



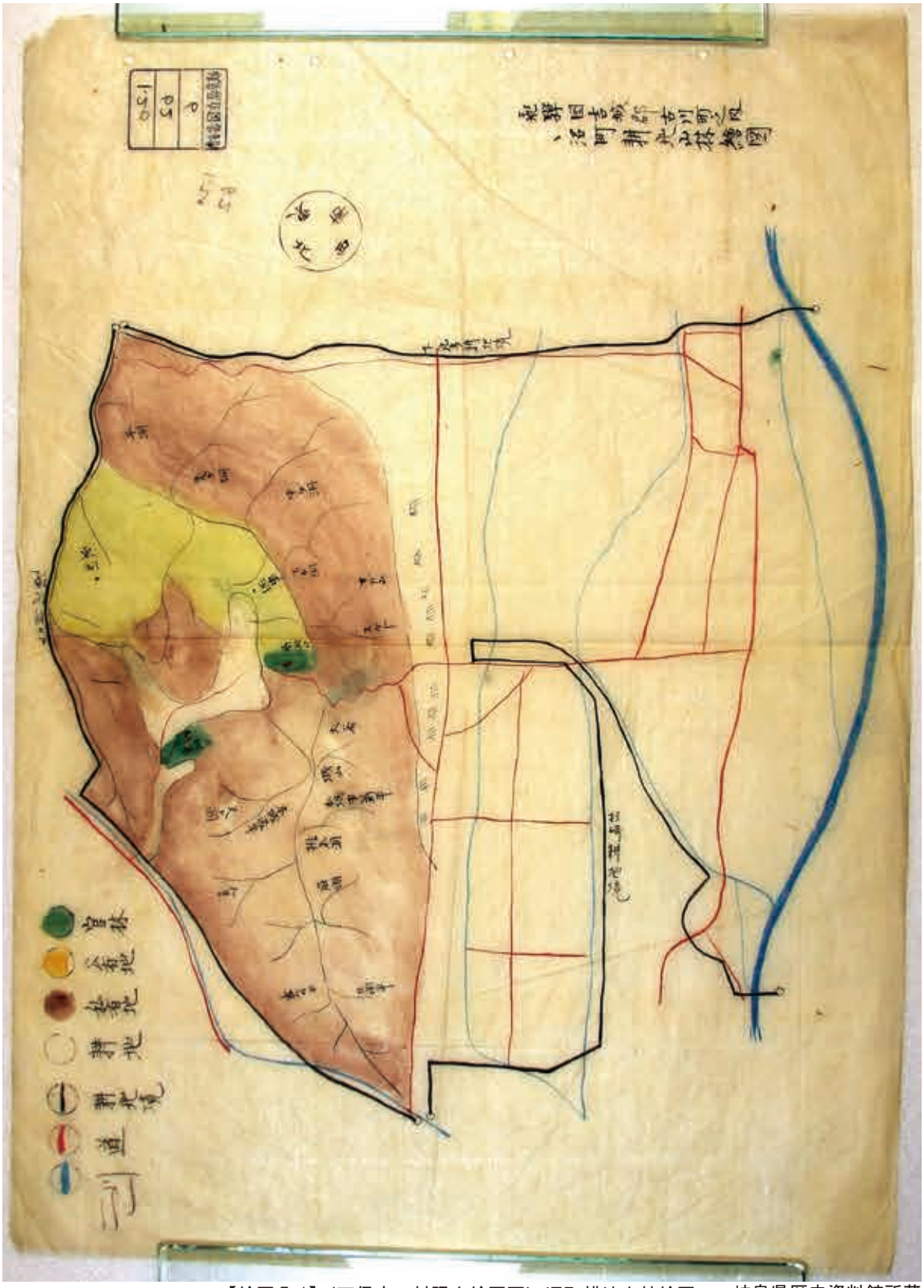
【絵図 5-1】（天保度一村限山絵図写）吉城・信包村　　岐阜県歴史資料館所蔵

【絵図 5-2】（天保度一村限山絵図写）吉城・信包村（向小島城跡付近拡大）

【絵図 5-3】（天保度一村限山絵図写）吉城・信包村（小鷹利城跡付近拡大）

図版 56

【絵図 6-1】（天保度一村限山絵図写）吉城・笹ヶ洞村　　岐阜県歴史資料館所蔵



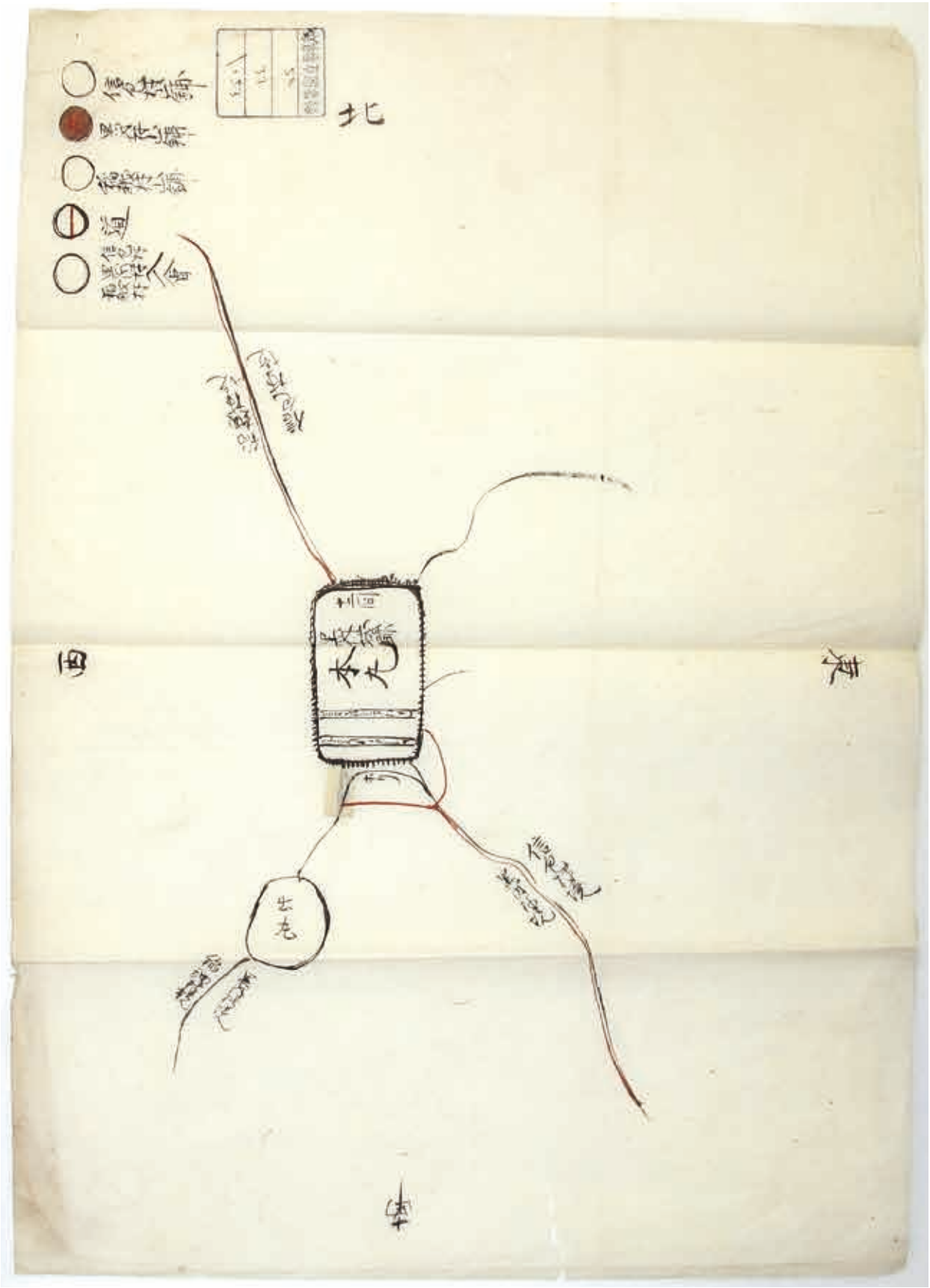
【絵図 7-1】（天保度一村限山絵図写）沼町耕地山林絵図　　岐阜県歴史資料館所蔵

【絵図 6-2】（天保度一村限山絵図写）吉城・笹ヶ洞村（向小島城跡付近拡大）

【絵図 7-2】（天保度一村限山絵図写）沼町耕地山林絵図（小島城跡付近拡大）

【絵図 8-1】（天保度一村限山絵図）吉城・小鷹利郷・稲越村　　岐阜県歴史資料館所蔵

【絵図 8-2】（天保度一村限山絵図）吉城・小鷹利郷・稲越村（小鷹利城跡付近拡大）



【絵図 9】吉城郡黒内村信包村古城跡論所裁許状写付属絵図　　岐阜県歴史資料館所蔵

【絵図 10-1】文化 9 年太江村絵図　　飛驒市所蔵

【絵図 10-2】文化 9 年太江村絵図（小島城跡付近拡大）

【絵図 11-1】天保 9 年高野村絵図　　飛騨市所蔵

【絵図 12-1】天保 15 年黒内村絵図　　飛騨市所蔵

【絵図 11-2】天保 9 年高野村絵図（古川城跡付近拡大）

【絵図 12-2】天保 15 年黒内村絵図（小鷹利城跡付近拡大）

○『飛州志』三木氏略系

- 正頼（忠右衛門）
  - 久頼（右京進）
    - 重頼（修理亮）
      - 直頼（右衛門尉 大和守）
        - 良頼（右京大夫）
          - 久綱（左門 長門守）
          - 頼一（新九郎）
          - 自頼（大和守 左京太夫）
            - 顕綱（豊後守 初名右衛門督）
            - 女子（岡本豊前守室）
            - 女子（一宮右衛門太夫国綱入道三澤室）
            - 信綱（左衛門尉）
            - 秀綱（豊後守 初名忠次郎）
            - 女子（遠藤右馬介室 小鷹利伊賀守室）
            - 基頼（柳ノ御所時光養子）

○『尊卑分脈』

- 師尹（正二位 左大臣 贈正一位 小一条祖 号小一条左大臣）
  - 濟時（正二位 権大納言 贈右大臣 号小一条大将）
    - 通任（従二位 権中納言）
      - 師成（正二位 参議）
        - 師季（正四位下 前甲斐守）
          - 尹時（正五位下 刑部少輔）
            - 師綱（正四位下 宮内卿 歌人 鎮守府将軍）
              - 親綱（従四位上 中務大輔 本名親憲）
                - 家時（正三位 中務大輔）
                - 信時（正三位 左馬頭）
                - 師平（正四位下 宮内卿 本名忠時）
                - 頼基（従三位）
- 高基（本名尹方）
- 尹綱（本名尹方）
- 家綱（従三位 参議 飛騨国司 本名基氏）
  - 師言（参議）
    - 持言（正四位下 左中将 飛騨国司）
      - 勝言（正四位下 左中将）
        - 時秀（正四位下 左中将）
          - 時親（従四位下 左中将）
            - 雅秀
  - 昌家（従三位 参議 実 尹綱子 新続古作者）
    - 女子（姉小路）
    - 基綱（従二位 権中納言 法名常心）
      - 済継（正三位 参議 宮内卿内侍 勾当内侍 済子）
        - 女子
        - 高綱（為源重治子、改姓字重継 舎兄早世之後、帰本姓改名高綱）
          - 女子（源通胤室）
        - 済俊（正五位下 左少将）
          - 秀綱（為伯父高綱子）
- 頼時（飛騨国司 本名基氏）
  - 尹綱

○『系図纂要』五巻

（略）

- 信時（正三位 左馬頭）
  - 師平（正四位下 宮内卿 本名忠時）
  - 頼基（従三位 内蔵頭 在関東 号坊門）
    - 高基（従三位 宮内卿 本名尹方）
      - 家綱（従三位 参議 （飛騨国司） 本名基氏）
        - 頼時（左京大夫 本名尹綱、或尹経、尹鏡 応永十八年七月八討死）
        - 師言（従三位 参議 飛騨国司）
          - 持言（正四位下 左中将 国司）
            - 勝言（正四位下 左中将）
              - 時秀（正四位下）
                - 時親（従四位下 左中将 小島）
                - 雅秀（正五位下 左少将）
                - 時光（従五位下 侍従）
        - 昌家（従三位 参議 実 尹綱男）（姉小路）
          - 女子
          - 基綱（従二位 権中納言 法名番林院 華岳常心 国司）
            - 女子（本願寺兼寿妻）
            - 済継（正三位 参議 法名常濟）
              - 済俊（正五位下 左少将 法名楠樹院）
                - 済光（従四位下 侍従 実 嗣子）
              - 高綱（正四位下 左少将 本重継）
                - 頼綱
                - 秀綱（従五位下 実 済俊男）
              - 女子（源通胤室）

（三木）

- 直頼（大和守 飛騨国司）
  - 良頼（従三位 参議 飛騨守 後嗣頼 法名雲山）
    - 自綱（従四位下 太宰大弐 本光頼 法名休安）
      - 宣綱（従五位下 侍従 天正七年自殺）
      - 直綱（三木右近大夫 慶長十四年没）
        - 慶利（遠藤但馬守慶隆嗣子 母遠藤但馬守慶隆女 三郎四郎 遠藤但馬守）

○『続群書類従』第六輯上

「飛騨国司系図」
藤原氏　紋藤

- 家時（正三位 大納言）
  - 信時（正三位 左馬頭）
  - 師平（宮内卿）
    - 頼基（従三位）
      - 家綱（従三位 参議 飛騨国司）
        - 頼時（左京大夫 初尹綱同国司 応永十八年生害）
        - 師言（従三位 宰相 任飛騨国司）
          - 持言（左中将 飛騨国司 号古川小島、左中将又向殿共）
            - 勝言（正四位下 左中将 飛騨国司）
              - 熙綱（従五位下 左衛門権佐 飛騨国司）
                - 宗熙（従五位下 飛騨国司 号向小島殿 童名千夜叉丸）
                - 貞熙（正五位下 左少将 飛騨国司）
              - 時秀（正四位下）
                - 時熙（正四（五）位下）
        - 昌家（従三位 参議 姉小路）
          - 基綱（従二位 権中納言 歌人 法名常心）
            - 済継（正三位 参議 法名常濟）
              - 女子（宮内卿内侍 済子）
            - 孝祐（大僧都別当 興福寺東門院法印【朱書】持言ノ息ト 無福寺別当次第二有）
        - 女子
    - 良頼（従四位下 非参議 古川国司 改名副頼 法名雲山）
      - 自綱（従五位下 侍従 飛騨国司 光頼 法名休安）
        - 親綱（正五位下 侍従 改名宣綱 生害）

○『実隆公記』永正元年閏三月十六日条

- 師尹（小一条 左大臣）
  - 済時（贈左大臣 左大将 大納言）
    - 通任（権中納言）
      - 師成（参議）
        - 師季（正四位下）
          - 尹時（従五位下）
            - 師綱（正四位下）
              - 済綱（従四位上）
                - 家時（正三位）
                - 師平（正四位下）
                - 頼基（従三位）
                - 高基（従三位）
                - 家綱（参議）
                - 尹家（参議 改昌）
                - 基綱（従二位 権中納言）

忍屋喜右衛門　利忠（トシタヾ）

閑公様御判、熊崎与三并公事之時願書、御判之写共ニ入

享保六辛丑六月上包箱に入ル、藤左衛門

（飛驒市蔵）

〔史料概要〕『岐阜県史』において「熊崎喜右衛門氏所蔵文書」と紹介されている史料であり、近年飛驒市に寄贈された。包紙上書の「閑公様御判」という記載から金森可重が交付した定書と伝わるが、黒印の印字は判読できない。史料は本紙と包紙が同じ巻子に表装される。本紙の大きさは縦二九・七×横四五・七㎝であり、包紙の大きさは縦四〇・〇×横二六・七㎝である。なお、堀祥岳は包紙上書のうち「忍屋喜右衛門」「享保六辛丑六月上包箱に入ル、藤左衛門」の部分は忍屋喜右衛門による追筆、「利忠」はそれ以降の補筆と推定している（堀祥岳二〇一五ｃ）。

〔綱文〕天正十七年三月二八日、金森可重が古川の商町に定書を交付する。商いを行う場が増島城下に存在したことが想定され、増島城や城下町が機能していた可能性を示す。

【姉小路氏・三木氏系図】

〔凡例〕

一、関連資料として、姉小路氏・三木氏関連の系図を掲げる。

一、参照した史料は以下の通り。

・『続群書類従』（塙保己一編一九七九『群書類従　第六輯上』続群書類従完成会（訂正三版）

・『実隆公記』（高橋隆三編一九九三『実隆公記　巻３下』続群書類従完成会）

・『尊卑分脈』（黒板勝美・国史大系編集会編二〇〇二『新訂増補国史大系第五九巻　尊卑分脈第二編』吉川弘文館（一九五九第一版））

・『系図纂要』（宝月圭吾・岩沢愿彦監修一九七三『系図纂要　第五冊』名著出版）

・『飛州志』（岡村利平編一九〇九『飛州志』住伊書店（長谷川忠嵩『飛州志』（享保年間））

一、系図の人物は、本書の第３章において調査対象とした年代の前後の人物を中心に抜粋した。

一、系図の親族関係や記載の有無等は各出典の史料によって異なっているが、本書では歴史的な検討による推定を加えず、史料の表記内容に従った。

一、転記誤りと想定される表記は修正し、（　）で示した。

（六〇〇巻）（史料一覧番号394）

「天正十年壬午十月廿六日丑刻ニ、江馬方小島城下取詰處ニ、取合ニ付而、不及戰荒木地へ引退、然處翌日午刻ニ訊庵、三ヶ所之人數押寄、申時ニ及合戰、酉刻ニ輝盛（江馬）討死、其外一家長衆數多戰亡、則廿八日卯刻ニ高原へ時光（小島）打入、諏訪城無相違則之、其節此經幷大鐘負來之、宮谷寺置之、何法寶如此哉、（後略）」

（寿楽寺蔵）

〔史料概要〕寿楽寺は曹洞宗で飛騨市古川町太江に所在。大般若経の書写は大治五年から始まり保元四年に終えたとある（二九巻奥書）。元々は郡上長滝寺僧侶が川上荘の新宮社に納め、天文年間ごろまでは同所に所在したが、その後いずれかの段階で高原郷に移された。天正十年、八日町の戦いの直後に小島時光が高原郷へ討入った際に分捕って宮谷寺に寄進したとあり（六〇〇巻奥書）、その後寿楽寺に伝来したものと考えられる。本報告では、姉小路氏や古川盆地に関連する二項目の記事を掲載する。

〔綱文〕

（五一一巻）天文九年八月、三木新九郎が東美濃へ出兵し、米田嶋城・野田城等の三城を落とす。この戦いには三ヶ所（姉小路三家か）、広瀬、高原（江馬）より百・二百の兵が合力したため、十月に三木直頼が「三ヶ所」を礼に尋ね、広瀬・高原へも贈り物をした。

（六〇〇巻）天正十年月二六日、江馬軍が小島城下に取り詰める。仲裁によって合戦に及ばず一旦荒木へ退く。翌二七日、「訊庵（三木自綱）」・「三ヶ所（古川盆地の勢力か）」の軍勢が押し寄せて戦いに及ぶ。江馬輝盛が討死し、その他家臣が多く戦死する。二八日、小島時光が高原郷へ攻め入り、諏訪城を落城させる。この大般若経と大鐘を分捕り、宮谷寺に納める。

史料S　金森可重定書（図版39）（史料一覧番号442）

一　諸やくめんきよせしむる事

一　いか様のうり物成共、みせてをき令売買之事。

一　おしかい、おしうりのやから在之ハ、きゝ出次第双方せいばいすへき事

右条々不可有相違所如件

天正十七

三月廿八日（黒印）

（包紙ウハ書）

湯かい、ちやうす仕可奉奉候。代々商ノ家と被存候。末々も商人可然候。

右両所為寺領進候、

慶長十四年七月廿五日　可重在判

（照蓮寺文書）

史料P　金森可重知行充行状写（史料一覧番号477）

（前欠）

一五拾石　古河之内小嶋所左衛門尉分　北村之内

一三拾七石六斗　荒木之内佐藤甚兵衛分　西門前

一拾弐石四斗四升　佐藤甚兵衛分　寒村

合参百石者

右所領宛行畢、全可令知行者也、

慶長拾七年菊月廿八日　可重（花押影）

金森茂兵衛殿

（日根野吉寿氏所蔵文書）

史料Q　金森可重知行充行状写（史料一覧番号479）

百石也　先知行分

百石也　大村之分

合弐百石也、

右領地宛行事（畢）、全可令領知者也、

慶長十九年九月朔日　可重（金森）　花押

槌打作平殿

（加藤周左衛門氏所蔵文書）

史料R　大般若波羅密多経奥書（図版38）

（五一一巻）（史料一覧番号259）

「天正九季庚子三木新九郎殿濃州土岐殿江出頭、東美濃米田嶋城・野田城、同日ニ城三ツ落居候而被罷通、隣国覺無比類候間、三ヶ所廣瀬・高原ヨリ、人数百、二百宛合力候間、其為禮義、三木右衛門尉殿直頼十月出国候而、三ヶ所江御越候而、数日滞留候間、御家来衆へも悉酒を作りノマセ候、三ヶ所廣高へも、兵庫樽五十荷ッ、御持参候也、如此新左衛門尉殿直弘家督相續候時書之、十月廿二日　」

（今見文書）

史料M　金森素玄知行目録写（史料一覧番号438）

令扶助所ゝ

一八拾石　川上之郷神宮村之内

一七拾三石五斗壱升　小八賀うり田村

一卅石八斗四升　高原之内　山之村之内うつほ村

一九石六斗七升　同　所　本郷之内かんなた村

一五石九斗　同　所　下條村之内

合弐百石餘、

但山林幷用木除之、

右全可知行之状如件、

天正拾五

十二月十三日

素玄（金森長近）（花押）

長屋喜兵衛殿

（池上謙二氏所蔵文書）

史料N　金森素玄知行充行判物写（史料一覧番号466）

広瀬之内

百石　多田少左衛門分

五拾石　遠藤長三郎分

合百五拾石

令扶助訖、当物成共ニ可領知者也、

慶長六年

十月廿四日　素玄　御判

袖判

大坪太郎助とのへ

（高山市郷土館所蔵文書）

史料O　金森可重寺領寄進状写（史料一覧番号475）

五十石　三枝中切　図書分

五十石　荒木東門前　図書分

合百石

（飛州志所載（熊崎氏所蔵文書））

史料I　三木自綱判物写　（史料一覧番号390）

自綱（花押影）

荒井四郎右衛門分事申付候、畑十俵之分畑所有之、其外無異儀抱置、諸役等全相勤奉公簡要也、仍如件、

天正十年

三月二日

小遣

若宮所

（飛州志所載（小瀬野氏所蔵文書））

史料J　三木秀綱判物写　（史料一覧番号409）

小七郎跡職之儀、不相替申付候、前々有裁許、諸役等全相勤奉公忠節簡要也、仍如件、

天正十二年

卯月十五日　　秀綱（花押影）

熊崎彦三郎とのへ

史料K　三木秀綱跡職安堵判物写（切紙）　（史料一覧番号413）

弥次右衛門跡職之儀、不相替申付候、如前ゝ、有裁許諸役等、全相勤奉公忠節肝要者也、仍如件、

天正十三年

二月十五日　　秀綱（花押影）

舟坂又左衛門とのへ

（舟坂文書）

史料L　金森素玄判物写　（史料一覧番号430）

以上

右いまミ在所壱町六段分出し置申者也、

丙戌（天正十四）　　金森法印

九月廿二日　　素玄　花押

彦二郎（いまミ）方へ

まいる

河上
名主百性中
直頼（三木）（花押）
（長滝寺文書）

史料F　三木自綱書状写（折紙）（史料一覧番号364）

名字転任之儀、忠節之筋目任有之、内ゝ其理令存知候、然間、弥奉公之可抽忠功之段、管（肝）要候也、謹言、
天正弐
霜月十四日
細江太郎左衛門とのへ
（三木自綱）（花押影）
（角竹文庫所収文書）

史料G　三木自綱證判見佐嶋彦九郎書状写（史料一覧番号369）

御無心之義申付而、御同心畏入存候、其返禮仁しやら野ゝ山出申候、彼之本文書相そへ候て、出申候上者、子ゝ孫ゝ違乱之義有間敷候、委細河合久内丞殿可被仰候、田中猪次郎文書進候、恐々謹言、
天正四年丙子
三月五日
見佐嶋彦九郎（花押影）
（三木自綱）（花押影）
（奥捻封ウハ書）「　彦九郎
船坂弥次右衛門尉殿　見佐嶋
御宿所　」
（舟坂文書）

史料H　三木自綱跡職安堵判物写（折紙）（史料一覧番号384）

細江弥右衛門討死ニ付て、彼跡職、即子牛に申付候、幼少之事ニ候間、祖父太郎左衛門取立、牛成仁之上、無異儀相続仕、奉公肝要也、仍如件、
天正六
十二月廿九日
牛
（三木自綱）（花押影）
（高山市郷土館所蔵文書）

史料C　室町幕府奉行人連署奉書案　（史料一覧番号132）

山科内蔵頭雑掌申飛驒国岡本上下保・石浦郷幷江名子・松橋郷等事、被返付訖、早莅彼所致合力、可被沙汰居雑掌之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明三

十月五日　　為信（飯尾）　之種（飯尾）

姉小路中将（基綱）家雑掌

姉小路左衛門佐殿

江馬左馬助殿

（山科家礼記）

史料D　三木直頼・同直弘・同直綱連署状案　（史料一覧番号241）

白山大御前別当職之儀、辻坊就御沽却、都筑小右衛門尉令買徳候、然處ニ、当家為祈祷所、於御寺内、執立院家一所、頼家為二世、於末代令寄進之條、一宇有執立、勤行等之儀、可有執行之事簡要（肝）候、後住之儀物、道雅以覚語（悟）、可為御能化、御方可被相定、縦雖為御弟子替道行、不被達勤行等之儀、於不法懈怠者、御寺門領川上庄押置、其理可申候、猶以彼別当職者之儀、小右衛門尉寄進申上者、自他以不可有其妨者也、仍為後日證状如件、

天文七年戊戌卯月十五日

直綱（三木新介）　在判

直弘（三木新左衛門尉）　在判

直頼（三木右兵衛尉）　在判

長滝寺

御院家住持様　参

（宝幢坊文書）

史料E　三木直頼・同直弘連署状（折紙）　（史料一覧番号276）

号公領長瀧寺公方年貢、不致進納候之由承候、近比曲事ニ候、厳重ニ可致奔走候、無沙汰有之者候者、被召連、可有御裁許由令申候、其上於如在ハ召放、別仁可申付候、恐々謹言、

天文十四乙

十一月十七日　　直弘（三木）　（花押）

【関連史料】第3章4節関連

〔凡例〕

一、本文に関連して、第3章4節（文献史料調査―領主としての飛騨の武家勢力）に関連する史料〔史料A～Q〕を掲載する。また、飛騨市内所在史料で原本調査を行った史料〔史料R・S〕について、概要・綱文とともに掲載する（史料の写真は図版38・39に掲載）。

一、典拠については史料の末に（ ）で示しているが、史料名下の「史料一覧番号」の数字が第3章の第12～36表（関連史料一覧）の番号に対応するため、併せて参照されたい。

一、全体的な史料の表記は典拠とした刊行物を基本としながら、写真帳等の確認結果によって変更を加えた箇所もある。

一、常用漢字を基本とし、適宜句読点や並列点を加えた。また、異体字・俗字・変体仮名などは常用漢字・平仮名を基本としながらも、特殊な字の場合は原本の字体のまま掲載した。

一、欠損・判読不能な箇所について、字数が分かるものは□で、字数が不明なものは〔 〕で表記した。

一、誤字・脱字・衍字・当て字等は推定可能なものは（ ）で傍注し、もとのまま示す場合は（ママ）と表記した。

一、年の表記が無い史料で、推定可能なものは（ ）で傍注して年を表記した。

一、上書・端裏書・折封・切封などは、（ ）で傍注した。

史料A　後花園法皇院宣案　（史料一覧番号120・121）

飛騨国小嶋郷神通河以面（西カ）之地頭職事、止□（之カ）綱押妨、任当知行、可全領知之旨、武家下知之旨被聞食了、不可有相違之由、院御気色所候也、仍執達如件、

応仁二年五月十六日　　按察（甘露寺親長）使（花押影）

姉小路新中将殿（勝言カ）

（案文消息類・蝉冕魚同）

史料B　室町幕府奉行人連署奉書案　（史料一覧番号131）

山科内蔵頭雑掌申飛騨国岡本上下保・石浦郷幷江名子・松橋郷両郷等事、早任奉書之旨、可被沙汰付下地於彼雑掌由、被仰下也、仍執達如件、

文明三年十月五日　　加賀守

肥前守

佐ゝ木治部少輔殿

（山科家礼記）

報 告 書 抄 録

ふ り が な	あねがこうじししじょうかんあと
書　　名	姉小路氏城館跡
副　書　名	総括報告書
シリーズ名	飛騨市文化財調査報告書、姉小路氏城館跡調査報告書
シリーズ番号	第16集、第1集
編著者名	三好　清超、大下　永、石川　蕗
編集機関	飛騨市教育委員会
所　在　地	〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町2番22号　TEL 0577-73-7496　FAX 0577-73-7497
発行年月日	2022年11月10日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ふるかわじょうあと 古川城跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうたかの 古川町高野	21217	00201	36° 13′ 23″	137° 10′ 56″	20181012～ 20181203 20200928～ 20210326	112	保存目的調査
こじまじょうあと 小島城跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうたいえ　すぎさき　ぬまま 古川町太江・杉崎・沼町	21217	00164	36° 15′ 05″	137° 10′ 26″	20181101～ 20181204	70	
のぐちじょうあと 野口城跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうのぐち　けさまる 古川町野口・袈裟丸	21217	00142	36° 15′ 49″	137° 08′ 29″	20190723～ 20191029	90	
こたかりじょうあと 小鷹利城跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうくろうち　のぶか 古川町黒内・信包、 かわいちょういなごえ 河合町稲越	21217	00146	36° 15′ 00″	137° 06′ 24″	20190825～ 20191107	129	
むかいこじまじょうあと 向小島城跡	ぎふけんひだし 岐阜県飛騨市 ふるかわちょうのぶか　ささがほら 古川町信包・笹ヶ洞	21217	00147	36° 15′ 05″	137° 07′ 56″	20190809～ 20191025	59	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
姉小路氏城館跡 古川城跡 小島城跡 野口城跡 小鷹利城跡 向小島城跡	城館	中世～近世	曲輪、切岸、礎石建物、掘立柱建物、柵列、土塁、畝状竪堀群、石垣	土師器、瀬戸美濃焼、珠洲焼、青磁、白磁、中国製染付磁器	各山城において、城郭遺構が良好に残存することを確認し、平坦地の造成手順・建築遺構・石垣構造などを確認した。

要約

姉小路氏城館跡は、飛騨市古川町一帯に所在する古川城跡・小島城跡・野口城跡・小鷹利城跡・向小島城跡の総称である。本報告書は、保存を目的とした文献史料調査・測量調査・発掘調査・歴史地理調査の総括報告である。

発掘調査では、山上の礎石建物や掘立柱建物、虎口の石垣などを検出し、遺構も良好に残存することを確認し、遺物の年代から中世から近世にかけての遺跡と確認することができた。測量調査・文献史料調査・歴史地理調査の検討からは、飛騨国司姉小路氏、三木氏、金森氏といった、各時期の勢力によって異なる領域支配の在り方に伴い、姿を変えながら中世から近世にかけて使われ続けた山城であることを確認した。

これらのことから、姉小路氏城館跡は山城の造りに飛騨地域の支配の在り方の変遷がよく表れている遺跡であると考えられた。加えて、その山城の構造変遷と権力・周辺の宗教勢力・集落・街道との地理的な関係から、飛騨地域の歴史的変遷を読み解くことができる遺跡でもあると考えられた。

飛驒市文化財調査報告書　第16集
姉小路氏城館跡調査報告書　第 1 集

姉 小 路 氏 城 館 跡

－ 総 括 報 告 書 －

発行日　2022年11月10日
編集・発行　飛驒市教育委員会
〒509-4292 岐阜県飛驒市古川町本町2番22号　TEL 0577-73-7496
印　刷　株式会社イビソク 飛驒営業所
〒509-4271 岐阜県飛驒市古川町谷963番地　TEL 0577-75-5715